

2日間延期され、8月11日に始まった「第96回全国高等学校野球選手権大会」、いわゆる夏の甲子園の熱戦は、25日、大阪桐蔭高校の優勝で幕を下ろしました。テレビの前で熱心に応援をされた人も多かったことと思います。

さて、新聞に載った試合ごとの個人成績表(テーブル)を基にして、打率(安打÷打数)や出塁率などを求めてみよう。上位16チームに限ってもよいですしベスト8に絞ってもよいです。

出塁率は打者の打撃機会当たりの出塁の割合を示し、(安打+四球+死球)÷(打数+四球+死球+犠飛)で求めます。打席数は打席に立ったすべての回数。そこから四死球・犠打・犠飛・打撃妨害出塁の数を引いた数値が打数です。普通の新聞では打席数は記載されていません。

投手の防御率は自責点÷投球回数×9で求められます。1回当たり奪三振率(1回=3人アウトするうち三振が1人なら奪三振率は0.333)や1試合当たりの奪三振数も計算してみよう。

ちなみに、96回大会の1試合奪三振3傑(8月24日現在)は、「沖縄尚学の山城大智投手〈14〉、作新学院戦9回完投」「東海大第四の西嶋亮太投手〈12〉、九州国際大付戦9回完投」「富山商の森田駿哉投手〈11〉、関西戦9回完投」。〈〉内は奪三振数。1回(3アウト)当たり奪三振率では、東海大相模の青島凌也投手が盛岡大付戦で記録した、5回3分の2で三振数9個。1回当たり1.59個の奪三振数ですから、3で割ると奪三振率は0.53(53%)となります。

さまざまなデータを解析し、夏の甲子園の余韻を楽しんでほしいと思います。

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)